

## 平成27年3月期 第70期 業績概要 第2四半期

桂川電機株式会社

当第2四半期連結累計期間における我が国の経済は、政府主導の経済対策や金融対策等により、企業収益は改善され景気回復の兆しが見られたものの、円安による原材料価格の上昇や消費税増税前の駆け込み需要の反動による消費の減少により、先行き不透明な状況で推移いたしました。一方、海外では新興国経済の成長の鈍化、欧州での政情不安など先行きの不透明感は払拭できない状況で推移いたしました。

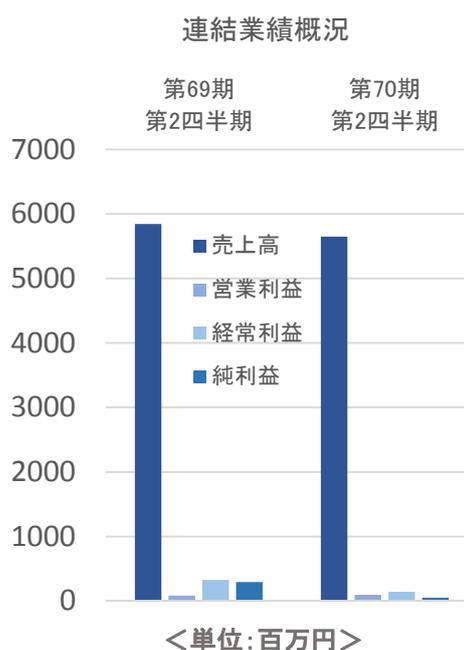
こうした中、当社グループにおきましては、販売面においては、北米市場に注力し、欧州市場の事業収益の改善に向けて販売体制を整備する等の活動を展開してまいりました。また、開発及び生産面においては、付加価値の高い新製品の開発と原価低減に努めてまいりました。

この結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の連結売上高は、56億49百万円(前年同四半期は58億46百万円)となりました。

営業利益は、95百万円(前年同四半期は84百万円)、経常利益は1億42百万円(前年同四半期は3億25百万円)、当第2四半期純利益は2百万円の利益(前年同四半期は2億94百万円)となりました。

<単位:百万円>

項目	第69期 第2四半期	第70期 第2四半期	前年同期 増減額
売上高	5,846	5,649	△197
営業利益	84	95	9
経常利益	325	142	△183
四半期 純利益	294	2	△292



## 事業別の業績

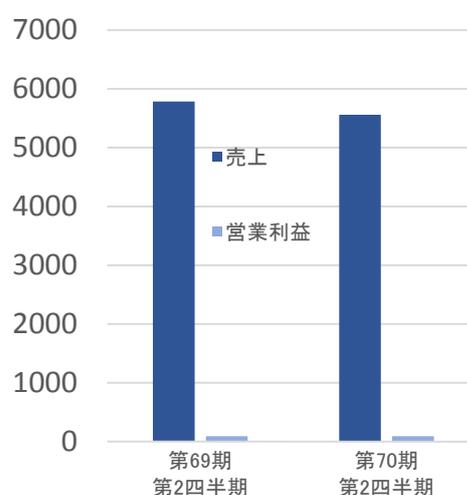
### 画像情報機器事業

画像情報機器事業の当第2四半期の連結売上高は55億61百万円(前年同四半期は57億85百万円)となり、営業利益は90百万円(前年同四半期は90百万円)の利益となりました。

- ・市場競争が一段と激化する中、売上高・営業利益は前年並み
- ・北米市場を中心に普及機モデルの伸び
- ・低価格帯モデルは、積極的な需要喚起を図る

<単位:百万円>

	第69期 第2四半期	第70期 第2四半期
売上	5,785	5,561
営業利益	90	90



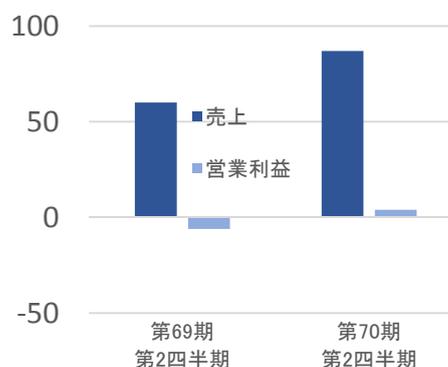
### その他事業

その他事業のモーションデバイス事業の当第2四半期の売上高は87百万円(前年同四半期は60百万円)となり、営業損益は4百万円の利益(前年同四半期は6百万円の損失)となりました。

- ・モーションデバイス事業の販路拡大を継続
- ・マイクロモータ等を主体に顧客ニーズをキャッチアップした製品開発・品質向上に注力
- ・**営業利益が黒字に転化!**

<単位:百万円>

	第69期 第2四半期	第70期 第2四半期
売上	60	87
営業利益	△6	4



## 営業外損益

営業外損益は47百万円の利益となりました。

<単位:百万円>

	第69期 第2四半期	第70期 第2四半期
営業外収益合計	254	71
営業外費用合計	13	24
営業外損益	241	47



※取引通貨レートの数値は、各決算期末日のTTMレート  
【出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティング】

## 通期の予想

日本経済は、景気回復策などの効果により、緩やかな回復傾向に進むことが期待されますが、海外経済は先行き不透明であり、販売面においては欧州市場は事業環境の厳しい状況が続くと見込まれます。

このような状況の下、当社グループでは、新製品の開発に力を入れ、グループでの企業体質の強化と収益の向上に努めてまいります。

現段階におきましては、今後の受注状況、世界経済や為替の動向など、依然として先行き不透明な要素も多いことから、平成26年5月20発表の予想数値を据え置いております。

<単位:百万円>

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
第70期 通期	11,000	130	150	50